

紫雲寺商工会景況調査結果

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 紫雲寺商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 12 事業所)
ウ 回答企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 12 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 平成28年7月～平成28年12月
(調査時点 平成28年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	2	13.3%	2	13.3%
建設業	4	26.7%	4	26.7%
卸・小売業	4	26.7%	4	26.7%
サービス業	5	33.3%	5	33.3%
合計	15	100.0%	15	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

今回の調査は昨年に比べ、売上・利益が微増の企業が若干増えているが、地区全体で見ると厳しい状況が続いている。微増と答えた企業は、経営計画を立て補助金等を活用している事業所ばかりであった。厳しい中、経費を切り詰め、なんとか借入をせず事業活動を進めている事業所が多い。

【後継者の状況】

昨年度に比べ、「後継者 あり」の事業所が増えた。親族を後継者をして採用した事業所が数か所あった。当会も70代の後継者の割合が高く、今後事業承継の相談も増えるものと思われる。

後継者 あり	8事業所	53.3%
後継者 なし	7事業所	46.7%

【売上高】

概要のとおり、売上微増の事業所が増えた。増えた事業所の内訳をみると「客数の増加」が多かった。いずれの事業所もチラシ・ホームページ、又当会の「紫雲寺まるごと逸品ずかん」等で事業所のPRに力を入れている事業所ばかりであった。

前年同期比

増加	不変	減少
5	5	5

前期比

増加	不変	減少
6	6	3

今後の見通し

増加	不変	減少
6	6	3

【採 算】

売上の増加して事業所は総じて、採算性もよくなっている。しかしながら、ほとんどの事業所は「不変」「悪化」であり、経費の切り詰めの限界にきている。

前年同期比

好転	不変	悪化
5	6	4

前期比

好転	不変	悪化
5	7	3

今後の見通し

好転	不変	悪化
6	6	3

【仕入単価】

仕入れ単価は、「不変」の事業所が多かった。一部店舗で部品の増加との回答があったが、ほとんどの業種で、仕入れ単価の増加はなかった。

前年同期比

上昇	不変	低下
1	12	2

前期比

上昇	不変	低下
1	13	1

今後の見通し

上昇	不変	低下
0	15	0

【販売（客）単価】

客単価はほとんどの事業所が「不変」であった。お客様の財布のひもが固く、最低限のもののみ購入している状況が継続していることが伺える。建設関係で客単価増加と答えた事業所が1件あった。

前年同期比

上昇	不変	低下
2	11	2

前期比

上昇	不変	低下
2	12	1

今後の見通し

上昇	不変	低下
2	12	1

【資金繰り】

余裕がある事業所はないが、苦しいながらも新規の借入をせず、資金を回している状況である。当地区内にも条件変更をしている事業所も数社あるが、ほとんどの事業所は約定どおりの返済にも戻せていないのが実情である。

前年同期比

好転	不変	悪化
2	12	1

前期比

好転	不変	悪化
2	12	1

今後の見通し

好転	不変	悪化
0	15	0

【雇用動向】

調査対象の多くは、家族のみの経営であるが、一部事業所では、求人を出しても全く反応がなく、人員確保に困っているとのことであった。

前年同期比

増加	不変	減少
0	13	2

前期比

増加	不変	減少
0	13	2

今後の見通し

増加	不変	減少
4	11	0

【景況判断】

前年に比べ、「好転」と回答した事業所が若干増加したが、今後については、不透明感があり、「不変」と回答した事業所がほとんどであった。

前年同期比

好転	不変	悪化
4	10	1

前期比

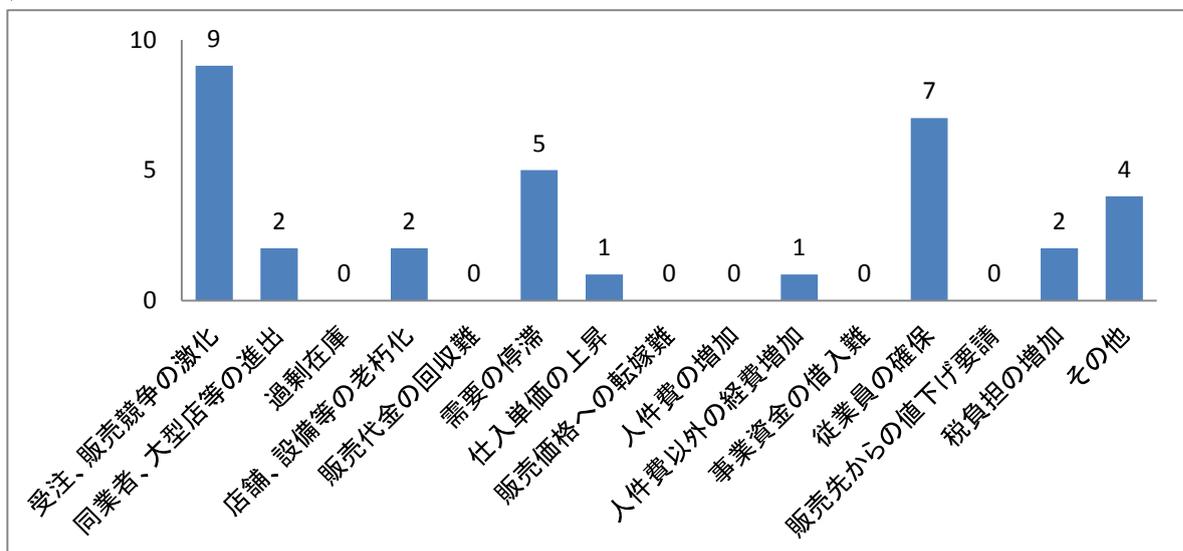
好転	不変	悪化
3	11	1

今後の見通し

好転	不変	悪化
1	14	0

【経営上の問題点】

売上が増加していない事業所が多いため、「受注・販売競争の激化」と回答した事業所が多かった。また、いずれの業種においても求人を出しても応募が全くない等の回答があり、当地区においても、「従業員の確保」が難しくなっていることが伺える。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

業況は厳しい。しかし、一般顧客をつかむため、ホームページのリニューアル、チラシの作成等を行い少しずつ成果が出てきている。また、一部の事業では新商品を開発し、人気商品も出てきている。さらなる工夫により、採算性の確保は可能である。

(2) 建設業

建築業を含む建設業においても、業況は厳しいが、売上が微増の事業所が数社あった。また、求人を出しても人が集まらないとの声が聞こえた。

(3) 卸・小売業

小売業・最寄品関係は町外の大型スーパー、量販店への流出が続いており、厳しい状況である。また、店主の高齢化により廃業が少しずつ増えてきている。

(4) サービス業

サービス業すべてにおいて、お客様の高齢化により、客数が減少し売上が減少傾向にある事業所が見受けられる。看板等を設置するため、小規模事業者持続化補助金の申請相談が増えている。

